



# さいばいニュース

## Vol.121

公益財団法人 神奈川県栽培漁業協会

発行所 〒238-0237

神奈川県三浦市三崎町城ヶ島養老子

TEL 046(882)6980

FAX 046(881)2233



## 新年のご挨拶

公益財団法人 神奈川県栽培漁業協会

理事長 高橋 征人

新年あけましておめでとうございます。

昨年の夏は猛暑で農産物や水産物の収穫に大きな影響を与えました。海では、7年も続いた黒潮の大蛇行が変わり、日本列島太平洋沿岸に沿った流れに変ってきました。湘南の定置網ではキハダマグロなど亜熱帯海域の魚が豊漁だった半面、ヒラメなどの沿岸種の不漁が続いています。黒潮の流れが変わることで、これから漁獲魚種が変わっていくか注視していく必要があります。また、黒潮の流れが変わることで、高水温であった沿岸がすこしでも水温が下がり、カジメ等の海藻が生育する環境が改善していき、人工的に回復措置を図っている場所の再生が成功するよう祈っています。米をはじめとする農産物の物価上昇が続いています。ただし、魚価は連動せず、価格が低いままであり、この構図を変えていく必要があると思います。消費者離れをしない程度に魚価の上昇を期待しています。

皆様のご健康と大漁を祈念して新年のあいさつとします。



マダイ種苗

## 令和7年度 種苗放流・供給事業

令和7年度の種苗放流事業および種苗供給事業は、魚類についてはマダイ・ヒラメ・メバル・カサゴ・トラフグ・カワハギ・マコガレイ・クロダイ、貝類についてはアワビ・サザエ・トコブシを行いました。

## マダイ

マダイ放流については、当協会が県内各所に249千尾、一般社団法人日本釣用品工業会が東京湾に95千尾、公益財団法人相模湾水産振興事業団が相模湾に64千尾、一般財団法人東京湾南部水産振興事業団が久里浜に24千尾、一般財団法人横須賀西部水産振興事業団が佐島に8千尾、江の島片瀬漁協が9.5千尾、茅ヶ崎市漁協が3千尾、神奈川県釣船業協同組合が平潟湾に17千尾を放流しました。

その他、9月17日に横須賀東部漁協久里浜支所からの要望で20千尾を配布、9月17日と9月26日に城ヶ島岸壁から合わせて25千尾放流、県内各所のイベントで約7千尾放流しました。

今年度のマダイ種苗は、生産開始時の水温が低かったため初期の成長はゆっくりでしたが、丁寧な飼育管理を徹底した結果、例年に比べて形の綺麗な種苗に育ちました。放流日程も例年通りで、2ヶ月かけて安定した放流を実施できました。



↑東扇島東公園での放流イベント

←茅ヶ崎漁港での事業放流

あけましておめでとうございます 公益財団法人神奈川県栽培漁業協会の事業の発展を祈念いたします

<p>東京都品川区南大井一丁目一九一六 TEL ○三一六四二三一〇九一 FAX ○三一六四二三一〇九七 〒140-0013</p> <p>理事長 中山 賢</p> <p>東京湾遊漁船業 協同組合</p>	<p>小田原市早川一丁目一 TEL ○四六五一三一五九八九 FAX ○四六五一三一五五二四 〒250-0021</p> <p>会長 小林伸光</p> <p>相模湾遊漁問題 対話推進協議会</p>	<p>小田原市早川一丁目一 TEL ○四六五一三一五九八九 FAX ○四六五一三一五五二四 〒250-0021</p> <p>理事長 武井正</p> <p>相模湾水産振興事業団</p> <p>森を育て、海・川をきれいにしましよう 小さな魚は海へかえしましよう</p>
---	---	---

## ヒラメ

ヒラメ事業放流は、昨年度まで7月を中心に実施してきましたが、今年度は種苗の餌となるアミ類が多いとみられる5・6月に実施しました。

当協会による事業放流は60千尾、(公財)相模湾水産振興事業団が相模湾に68千尾、(一財)横須賀西部水産振興事業団が長井と佐島に合わせて12千尾、各組合とその他団体によるイベント放流が以下の通りです。5月26日に湘南漁協葉山支所が5千尾、5月28日に横須賀東部漁協が350尾、みうら漁協が1650尾と、みうら漁協金田湾遊漁部会から4千尾を地先で放流しました。6月3日に長井町漁協が4千尾と湘南佐島支所が1.2千尾、6月8日に(公財)日本釣振興会神奈川県支部が長井に5千尾、6月9日に江の島片瀬漁協が12千尾、6月14日に横浜市漁協、横浜埠頭株式会社が30千尾、横浜丸魚株式会社が5千尾を横浜ベイサイド地区に放流しました。真鶴町漁協が2.8千尾と岩漁協が480尾、福浦漁協が1.5千尾、大磯二宮漁協が2,408尾を地先、6月19日に小田原市漁協が16千尾、6月26日に横浜市漁協金沢支所が2千尾、東京湾地域遊漁、6月27日に平塚市漁協10,750尾を放流しました。

今年度の新たな取り組みとして、5月25日と6月26日にヒラメ放流適期調査のため、各5千尾を葉山の海岸で放流しました。



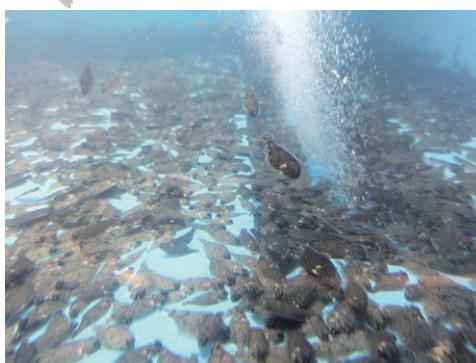
←葉山で実施した  
試験放流



## ↓横浜ベイサイドでの 事業放流

## その他

県内の放流事業およびイベント放流についてご紹介します。



## マコガレイ種苗



横須賀海辺つり公園でのメバル放流



## 岩でのカサゴ・メバル放流



長井でのサザエ放流体験授業



## 佐島でのサザエ放流体験



## 浦賀でのカワハギ放流



## 腰越でのカサゴ・メバル放流



## 小田原でのマコガレイ放流

あけましておめでとうございます 公益財団法人神奈川県栽培漁業協会の事業の発展を祈念いたします

<p>公益社団法人 <b>全国豊かな海づくり推進協会</b></p>
<p>会長 坂 本 雅 信 〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町二-二-八 日本橋フジタビル四階</p>
<p>TEL ○三一五六五一三五〇一 FAX ○三一五六五一三五〇二</p>
<p>代表理事長 高橋征人 〒236-0051</p>
<p>横浜市金沢区富岡東二-一-一-三一 TEL ○四五-七七三-六七七七</p>
<p>日本漁船保険組合 神奈川県支所 運営委員長 鈴木清 〒236-0051</p>
<p>横浜市金沢区富岡東二-一-一-三一 県漁連ビル一階 TEL ○四五-七七二-一七三〇一 FAX ○四五-七七八-三九二〇</p>
<p>日本漁船保険組合 神奈川県支所 運営委員長 鈴木清 〒236-0051</p>
<p>神奈川県漁業無線協会 会長理事 小山恭弘 〒2338-0232</p>
<p>三浦市晴海町一-七 三浦水産合同庁舎 TEL ○四六-八八二-二七八四 FAX ○四六-八八二-二五一三</p>
<p>神奈川県漁業無線協会 会長理事 小山恭弘 〒2338-0232</p>
<p>東京湾南部水産振興事業団 理事長 榎本幸司 〒239-0831</p>
<p>横須賀市久里浜八-九-五 TEL ○四六-八三四-三五九六 FAX ○四六-八三四-三六九〇</p>
<p>横須賀市久里浜八-九-五 TEL ○四六-八三四-三五九六 FAX ○四六-八三四-三六九〇</p>
<p>神奈川県しらす船曳網漁業 連絡協議会 会長 浜野暁夫 〒251-0035</p>
<p>神奈川県しらす船曳網漁業 連絡協議会 会長 浜野暁夫 〒251-0035</p>

# カナエル・KT グループ リビエラから寄付金



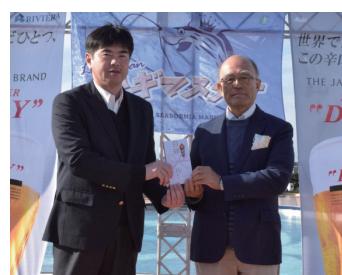
A photograph showing three men in a fish processing facility. On the left, a man in a white shirt and glasses points towards a tank containing several fish. In the center, another man in a white shirt and glasses leans over the tank, looking at the fish. On the right, a third man in a white shirt and glasses stands with his hands on his hips, also observing the fish. The tank is filled with water and has a blue and white checkered pattern on its side. The background shows more tanks and equipment in the facility.

株式会社カナエルより去年に引き続き今年も寄付金が贈呈されました。贈呈式には佐野専務はじめ複数名の社員が来所され、飼育施設の見学やマダイのエサやりを体験されました。

株式会社 KT グループの上野事業株式会社と神奈川トヨタ商事株式会社、神奈川ハマタイヤ株式会社から今年度も寄付金が贈呈されました。贈呈式には KT グループ上野会長、神奈川トヨタ商事の黒田社長、手島参与が来訪されました。



シーボニアマリーナで開催された釣りイベント「ハギマスター」から、参加費の一部を寄付金としていただきました。表彰式パーティーで贈呈式が行われ、今井専務から御礼のあいさつをさせていただきました。



## カワハギ種苗放流の要望が増加傾向

カワハギの資源が近年減少し、カワハギ種苗の放流要望が増えています。

カワハギは釣り餌の餌とりが上手で釣り上げるのが難しい魚の一つであり、それだけに人気があり、三浦半島の東京湾、相模湾でカワハギ釣り専門の船あります。カワハギの雌雄の見分け方は、雄は体色が鮮やかで特に体側に青い斑点が目立ち、全体色がくつきりしています。また、第二背ヒレ第1棘が長くなっています。カワハギは肝が肝心で肝が大きくなる冬に旬となります。産卵期は5~6月で、受精卵は岩や海藻に付着します。人工授精の場合には水槽底面に産み付けますが、ふ化率が低く改善が必要です。ふ化3日ほどで口があき、最初餌料を与えます。初期の餌料は小型のシオミズツボワムシであり、成長につれて、大型のシオミズツボワムシ、アルテミア、配合飼料へと切り替えていきます。魚類の種苗生産技術としては後発の種類であることから、大量生産には稚魚同士のかみ合いなどまだ多くの課題が残されています。成長ははっきりしませんが、20cm台が2歳、30cmが3歳で4~5年の寿命があるようです。

カワハギ資源の減少の要因の一つとして、カジメの海中林が磯焼けになっていることです。天然でのカワハギは、小型エビ類、ゴカイの仲間など、カジメの葉の上に棲んでいる動物や海底にいる底生生物を餌としています。また、カジメ海中林は外敵からの隠れ場ともなっています。また、流れ藻も稚魚の隠れ場になっていて、少なくなっています。それから、資源を回復するためカワハギの種苗放流だけではなく、神奈川県沿岸のカジメ・アラメ藻場と九州・四国のホンダワラ類の回復も必要です。

栽培漁業協会としては、今年度、東京湾南部水産振興事業団が全長6cm 種苗を浦賀に15,000 尾、北下浦に15,000 尾、公益社団法人日本釣振興会が浦賀に3,000 尾、神奈川県支部が長井町に4,000 尾、ワールドスポーツ株式会社が1,000 尾、腰越漁業協同組合が2,200 尾を放流しました。

現在、他県から種苗を購入して要望がある団体に斡旋していますが、将来、自身でも種苗生産技術を開発し、種苗の供給ができるようにしていきたいと考えています。

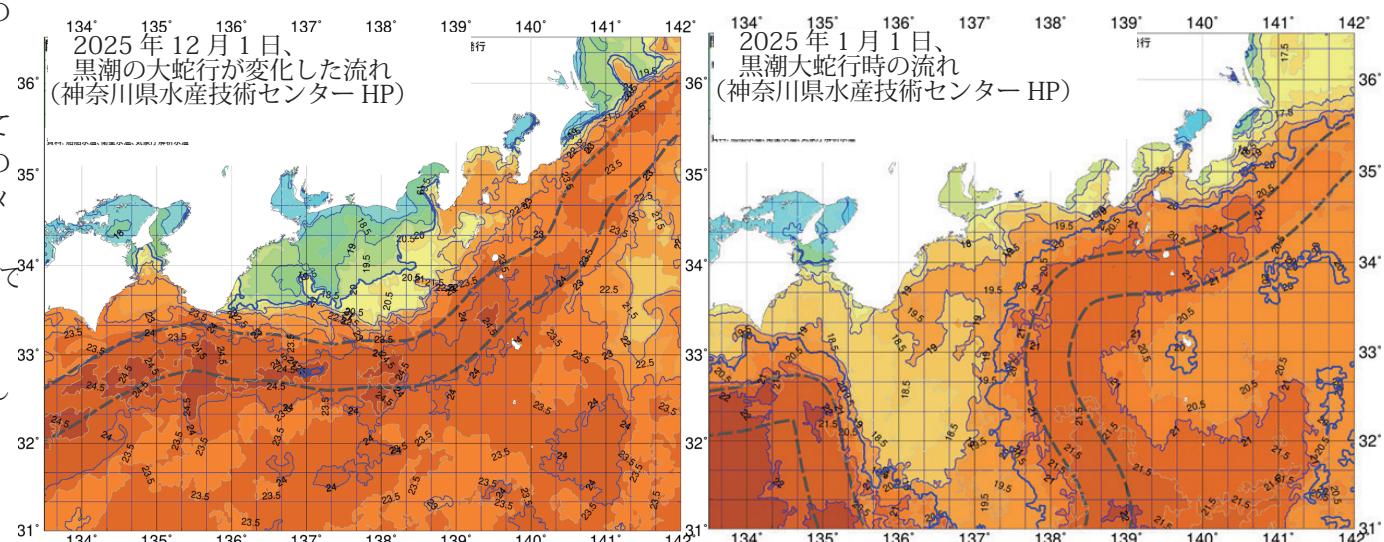
## 黒潮の大蛇行終息

2017年8月から2025年4月まで黒潮大蛇行がありました。これほど長く大蛇行が続いたことは近年にはありません。大蛇行の起こると太平洋沿岸の水温が高くなり、漁獲生物の組成に変化があります。特に、回遊性魚類のキハダマグロ、マルソーダやタチウオが豊漁となりました。その反面沿岸魚種のヒラメ資源の減少やシラスがしばしば不漁となりました。黒潮大蛇行だけが原因ではありませんが、アイゴ、ブダイ、イスズミなどが増え、これら海藻を食べる魚類が増えることで磯焼けが起こり、アワビの餌料であるカジメが不足し、アワビが大不漁となりました。また全国的に見てみると暖かな海に生息するトラフグやイセエビの分布が茨城県、福島県まで北上し、ブリ、サワラが北海道で大漁となり、サケ、サンマ、スルメイカが不漁となっています。

最大の関心事は、黒潮大蛇行が復活するのか、地球温暖化の中で海水温の高温化が緩和するのか、今まで獲れていた水産生物の漁獲は再び増えていくのか、将来の漁獲への不透明さがあります。

栽培漁業を推進する立場としては、水温が下がり、放流ヒラメの回収率が元に戻ることと、カジメの群落の回復を期待しています。

ヒラメ種苗の放流を2024年までは7月中心に行っていましたが、2025年からは餌であるアミ類が比較的多く分布する6月に変更しました。



あけましておめでとうございます 公益財団法人神奈川県栽培漁業協会の事業の発展を祈念いたします

<p>一般財団法人 横須賀西部水産振興事業団</p>
<p>理事長 小澤紳一郎 〒240-0101 横須賀市長坂二丁目三 TEL ○八〇一八八一〇一五 一三二</p>
<p>クロレラ工業株式会社 営業本部技術特販部 〒833-0056 福岡県筑後市久富一三四三 TEL ○九四三一五二一二六一 FAX ○九四三一五二一七二〇三</p>
<p>株式会社リビエラリゾート 代表取締役 小林昭雄 〒238-0225 三浦市三崎町小網代二二八六 TEL ○四六一八八二一二二二二</p>
<p>太平洋貿易株式会社 PTC 福岡市博多区住吉一一一一 TEL 092-283-5003 TEL 092-0012 神奈川県横須賀市山科台七一八 TEL ○四六一八五〇一五三三 FAX ○四六一八五〇一五三四 TEL 0238-0312 FAX ○五三一三二一〇六二二 TEL ○五三一三二一〇六二二 FAX ○五三一三二一〇六二二</p>
<p>ダイドーアサヒベンディング 株式会社 水産種苗販売・輸送 株式会社 矢田水産 代表取締役 矢田啓二 〒441-3605 愛知県田原市江比間町五字郷中九七番地三 TEL ○五三一三二一〇六二二 FAX ○五三一三二一〇六二二</p>

## かながわ漁協探訪 ~茅ヶ崎市漁業協同組合~



茅ヶ崎といえば湘南のド真ん中。サザンオールスターズをはじめ、さまざまな楽曲にも登場します。そんな美しい情景を織りなす茅ヶ崎の海では、昔ながらの漁業も続いています。最も盛んなのはしらす船曳漁。現在は4経営体が稼働しています。そして刺網、地曳網、ワカメ養殖やヒジキ漁も行われます。釣りブームもあって遊漁船も増えており、所属している漁業者の平均年齢は51歳と非常に若いです。

また、海の資源を守るために、当協会も参加している稚魚や稚貝の放流をはじめ、堅くなった海底を耕して動物の増殖を図る海底耕耘、乱獲防止のための管理など様々な取組みをしています。

漁業以外でも、渡船えぼし丸による磯渡しやえぼし周遊船の運行、市内小学校の漁港見学、直売会(シーサイドマルシェ・生わかめまつり)などを行っています。

### ☆ちがさきシーサイドマルシェ☆

2月、4月、6月、10月、12月に開催される、茅ヶ崎の旬の味覚が楽しめるイベント。販売される魚や野菜は開催月ごとに変わるので、何回行っても楽しめます。

地元で人気のパン屋さんや渡船による“えぼし周遊クルーズ”など、さまざまなお楽しみがあります。



昨年、振舞われたあら汁



漁協のホームページ

### ◎生わかめまつり◎

えぼし岩付近で養殖され、1月末～3月頃しか収穫できない貴重な「えぼしわかめ」が販売され、毎年長蛇の列ができる大人気のイベント。毎年2月に開催。



茅ヶ崎の魚市場と平塚魚市場が平成30年に合併したとき、そこで働いていた職員が独立して立ち上げた茅ヶ崎イシラス。生まれ育った茅ヶ崎の漁業者やお店のためにと、卸売と直売を行っています。漁業者は水揚げした魚を持ち込んで売上を得ることができます。消費者やお店は新鮮な魚介が入手できます。加工場が併設された直売所では、鮮魚のほかに釜揚げしらすや干物などの加工品も並びます。

住所：茅ヶ崎市南湖6-18-3

営業時間：10:00～16:00



### 紫外線殺菌装置の導入による貝類生産の展望

当協会では貝類生産、とりわけアワビの生産における筋萎縮症などの病気の発生が常に心配の種でした。昨年ようやく紫外線殺菌装置が一部導入され、アワビの生産開始時に使用スタートするべく、職員が飼育作業の合間に取付工事を行っています。既に採卵シーズンは始まっているため、ゼロの状態から使用するには至りませんが、採卵後の幼生飼育から使用を始めており、今後の成長に注視しています。順調に稼働すれば、例年以上に良い種苗を漁業者の皆さんにお届けできると考えています。



職員による配管取付作業



### 編集後記

地球温暖化が進む一方で黒潮大蛇行の終息があり、今後の海洋環境がどのように変化していくのか、想像がつかない状況になっています。一気に東北まで分布域が北上していったタチウオやアイゴ、イセエビがそのまま残るのか、三陸から消えてしまったコンブは戻るのか。それぞれの場所で培われてきた食文化が変化に適応していくのか。10年後、20年後のおせち料理に変化があるのか。文化も大切にしながら、環境の変化にも柔軟に対応していきたいと思う今日この頃です。



あけましておめでとうございます 公益財団法人神奈川県栽培漁業協会の事業の発展を祈念いたします

**Kitamura**

株式会社 北村

〒604-0051  
京都市中京区二条油小路町 291

サントリ  
ビバレッジ  
ソリューション  
株式会社

